

年 組 名前

2020年6月9日付



## 通風筒

◇：滋賀県長浜市湖北町の琵琶湖岸で、黒い冠羽が特徴のカムリカイツブリが、子育ての季節を迎えた。親鳥の背中から、愛らしいひなが顔をのぞかせている写真。

◇：日本のカイツブリ科では最大種で成鳥は体長約六〇センチ。本来冬の渡り鳥だが、琵琶湖には三十年ほど前からすみ着くようになった。ひなをトビやカラスなどから守るため、ふ化して十日から二週間、親鳥が背中に乗せて育てる。

◇：同市の湖北野鳥センター近くの湖上では八日、ひなが親鳥の差し出す餌をついばんだり、時折水面に下りて親鳥を追うように泳いだりしていた。同センターによると、子育ての姿は七月中旬まで見られるという。ひなにとって親鳥の背中は「見る」ものではなく、「乗る」ものだった。

※ 大人の人に記事を読んでもらって考えましょう。

問1：なぜ親鳥はひなを背中に乗せて育てるのでしょうか。

( )

問2：親鳥はどんなことを話しているのか想像して、吹き出しに書きましょう。

## 【活用にあって】

想像する時に大切なことが二つあります。

一つは、想像することについて内容の大体を捉えることです。どんな場面なのか、何をしたのか、なぜしたのかなどを具体的に思い描き、全体のあらましをつかむことです。

もう一つは、叙述を基にすることです。文学作品であれば、「ここにこう書いてあるから、主人公はこんな表情・口調・様子だった」と根拠を明確にして思い描くことが大切です。

カムリカイツブリでは、書かれた文章と写真を基にして想像するようにします。

### 解答例

問1：ひなをトビやカラスなどから守るため。

問2：お母さんの背中が安心だよ、えさの取り方をまねしてね、けんかしないでねなど、いろいろと想像できますね。